

五色沼自然探勝路モニタリング報告

【経過】

裏磐梯を代表する五色沼自然探勝路は多くの利用者があると同時に、そのほとんどを国立公園の特別保護地区に指定されている。しかし磐梯山噴火後 128 年という自然環境としては短い時間を経過したにすぎず、その植生遷移はいまだ途切れることなく続いている。そのため、探勝路中の各沼のほとりではヨシ等の侵入や周辺の樹木の成長が著しく、徐々に景観を阻害することになっている。

裏磐梯エコツーリズム協会では、「五色沼利活用検討会」において決定され実施されてきたヨシの除去作業の結果（通景線の確保状況）他について、継続調査（モニタリング）を行い報告してきた。昨年度からはヨシ周辺の水生動植物の保護を優先すべく当該作業が中止されたが、それによる通景線の変化および希少植物、外来植物、探勝路の損傷等について、今年度も継続調査を実施したのでここに報告する。

【概要】

(1) 実施期日

- 第 1 回 平成 28 年 4 月 26 日 晴れ
- 第 2 回 平成 28 年 5 月 28 日 曇り
- 第 3 回 平成 28 年 6 月 17 日 雨のち曇り
- 第 4 回 平成 28 年 7 月 27 日 曇り
- 第 5 回 平成 28 年 8 月 23 日 曇り（前夜台風 9 号のため大雨）
- 第 6 回 平成 28 年 9 月 19 日 曇りときどき雨（前日から雨）
- 第 7 回 平成 28 年 10 月 25 日 晴れ
- 第 8 回 平成 28 年 11 月 18 日 晴れ

(2) 調査者

伊藤延廣（第 1～6、8 回）、鈴木正代、（第 2,3 回）、立花千秋（第 1～8 回）

【結果】

(1) 通景線の確保状況

今年度も、通景線調査の対象となる 4 つの沼（青沼、るり沼、弁天沼、毘沙門沼）について実施した。

・青沼（地点 C）：第 1 回ではヨシは約 20-30cm、第 2 回 1.0m、第 3 回から 2.0m 程度で、視点場の高いこの沼では第 8 回まで通景線は確保されていた。しかし、視点場左右のクワなどが成長して、通景線を阻害している

・るり沼（地点 E）：第 1 回目は 20～30cm 程度で通景線は確保されていたが、第 2 回では 1.5m、第 3 回からは 2.0～4.0m ほどに伸びて通景線は完全に阻害されていた。今年もヨシの倒伏作業が実

施されなかったため、年間通して通景線は確保されず沼が視認し難くなっていた。

一昨年度（H26）の報告で代替施設等の必要性について触れ、「五色沼利活用検討会」で展望施設
の設置が決められた。昨年度はその設計・測量等を、そして今年度（繁忙期を避けて）着工・完成
という工程で進められてきたが、モニタリング調査期間が同探勝路の繁忙期と重なったため着工の
確認はできていなかった。ただし、本年（H29）1月に、基礎工事の一部が確認されている。

・弁天沼（地点 F）：展望デッキがあり以前からヨシの倒伏作業の対象外であるが、デッキ上からの
通景線はある程度確保されている。しかし、調査を進めるにつれてヨシ丈は伸び、第1回では
20-30cm 程度でデッキに上がらずに沼も垣間見えたが、その後は 2.0m～3m（第3～7回）になり、
地上からは全く見えず、デッキに上がっても沼は遠景として見られるのみ、小児であれば視認が難
しい状態である。

・毘沙門沼（地点 J）：ここは視点場が高く、通景線を妨げるものはヨシではなく周囲に生育する中
低木である。一昨年 11 月にこれら中低木の整理除去作業が行われたことで、今年は第1回から 7
回まで沼を見下すことができた。しかし、夏の期間は葉が茂り通景線が十分に確保されているとは
言い難い状況であった。

・その他：青沼、弁天沼畔でも、一昨年の 11 月に一部の中低木が整理され、新たに視点場（地点 D、
G）ができそれぞれの通景線を補っている。さらに深泥沼（地点 I）、毘沙門沼（地点 J）でも中低
木の一部が整理され、視界が確保されていた。しかし、中低木の成長に伴い景観は変化するので、
これからも状況に応じた整理が必要である。また、竜沼（地点 N）はモニタリングの対象外ではあ
るが、中低木の繁茂が激しく標識前からは沼はほとんど視認できていない。

（2）外来植物の生育状況

五色沼における外来植物は、人為的植栽によるものと自然に侵入してきたものとに分けられる。

・キショウブ：柳沼北岸（地点 A）柳沼西岸（地点 B）のものは人為的植栽によるものと思われた。
しかし、最近駆除活動が行われたためかなり減少の傾向にある。東園地（地点 M）のものは開花を
確認したものの増減については確認できていない。

・マルバハッカ：人為的植栽によるものではないと思われるが、観光客の出入りの多い柳沼西岸（地
点 B）と毘沙門沼畔（地点 L）に点在している。柳沼畔のものは、一時は駆除されたようだがまだ
残っている。毘沙門沼畔は手つかずである。

・オオハンゴンソウ：毎年一斉駆除を行っているにも拘わらず、毘沙門沼周辺に多く繁茂している。
また探勝路の路傍（柳沼、弁天沼等）にも点在していた。これらは調査の折に駆除しているが、完
全には駆除しきれず毎年同じようなところで見つかっている。

・コカナダモ：柳沼畔の水中に繁茂している。昨年度同様に今年度も水面下にはあるが浮葉を見る
ことはなかった。

（3）希少植物の生育状況

五色沼周辺にはほかにも希少種はあるのかもしれないが、我々が確認できたのは下記の 6 種のみ
である。

・ミクリ：柳沼北岸および北西岸（地点 A、B）に点在するが、外来種のキショウブなどと混生し
ている場所がある。

・ツバメオモト：前年と同様のエリアに 30 株以上が生育している。開花、結実を確認している。

- ・ヒメイチゲ：一昨年と同様のエリアに生育している。結実を確認している。
- ・ヒロハツリバナ：毘沙門沼畔（地点 K）に生育している。開花、結実ともに確認している。
- ・トキシウ：今年度も、確認できなかった。
- ・オオアカバナ：五色沼東園地（地点 M）に生育（10 株程度開花）しているのを確認した。昨年度より多いような印象を得た。

（４）ぬかるみ等歩道整備箇所

探勝路の路面状況は、年々改善されて歩きやすくなっているが、一部に表土が流されて岩角が突出している。

- ・路面のぬかるみ：天候や時期により左右されるため一概には特定できないが、第 3、6 回および第 7 回時には柳沼と青沼の間、毘沙門沼畔に 1～数か所出来ていた。第 3 回時には、毘沙門沼西岸の橋の上など数か所水たまりやぬかるみが出来ていた。昨年ひどかった弁天沼と竜沼の間は目立つたぬかるみがなかった。青沼・るり沼間の水溜りは通行の妨げになるほどではなかった。
- ・探勝路外への踏み込み跡：第 1～8 回時に、柳沼西岸（地点 B 近く）探勝路入口ゲート脇から沼側への踏み込み跡があった。弁天沼展望デッキ手前、竜沼・みどろ沼間の滝の所にも踏み込みがあった。
- ・休憩用ベンチと木道：弁天沼・竜沼間の流れの脇（地点 H）にあるベンチ 3 基と流れの西側の木道が、徐々に腐れかけている。るり沼入口の木道の継ぎ目が狭くすれ違いが困難。
- ・伐採跡：一昨年、弁天沼南岸（地点 G 付近）の立ち枯れたアカマツが伐採されて景観が良くなり新たな視点場となった。
- ・岩角：探勝路の青沼入口から同視点場（地点 C）への歩道と、るり沼入口の木道からるり沼（地点 F）への歩道に、岩角が多数突出していて足場が悪くなっている。

【考 察】

（１）通景線の確保

通景線確保の対象となる 4 湖沼（青沼、るり沼、弁天沼、毘沙門沼）のうち、青沼はおおむね良好な視界が確保されている。

- ・青沼：通景線は確保されている。さらに一昨年度新たに第 2 視点場とも言うべき場所（地点 D）が探勝路沿いに整備されたが、徐々に視界は悪くなっている。青沼の看板とベンチは沼の見える位置に置くべきではないかと思われる。
- ・るり沼：視界が確保されているとは言い難い。観光客の苦情も何度か受けているが、展望施設の整備がすすめられているので来年度に期待したい。
- ・弁天沼：展望デッキがあるためデッキ上からの視界は確保されているが、デッキ前のヨシ原が沖に向かって広がり沼も遠景としてしか見ることができない。しかし、一昨年新たに第 2 視点場（地点 G）が整備され、そこからは間近に沼を見ることができるようになっている。
- ・毘沙門沼（地点 J）：一昨年通景線を阻害していた中低木が除去され、沼を見下す視界が良くなった。しかし夏場は葉が生い茂り可視面積が狭まる。
- ・この他：みどろ沼（地点 I）でも一昨年中低木が整理され視界が広がったが、徐々に阻害されている。この整備作業は、従来から指摘してきた陸域における中低木の整理（除去）が実現したもの

で、観光にも自然観察にもより良い効果をもたらした。中低木の成長に伴い景観は変化するのでさらなる整備が必要である。また、竜沼（地点N）は木の葉が落ちた晩秋の時期には垣間見られるが、その他の季節には案内標識前からは見ることはできない。何らかの対策が必要であろう。

（2） 外来植物

・キショウブ：柳沼畔のものは一部人為的な植栽によると思われるが、今年も福島大学により駆除が進んでいる。そのため、年々の増加にかなりの歯止めがかかっていると思われる。東園地にあるものについても駆除が必要だと思われる。

・マルバハッカ：柳沼および毘沙門沼畔では、観光客などの出入りが多いために自然と持ち込まれたものと思われる。柳沼西岸のものは福島大学により駆除が進んでいるが、柳沼北岸と毘沙門沼畔木道脇は繁茂している。繁殖力が強いので早期に駆除する必要がある。

・オオハンゴンソウ：毎年夏の一斉駆除ほか駆除活動が行われているため、一部の場所では効果が現われているように見える。特に毘沙門沼高台から沼側の急傾斜地の除草剤による駆除活動は、危険個所であるため効果的と思われるが、立ち枯れたオオハンゴンソウは異様であり、景観を阻害するようにも思われる。また、駆除後も小さい株が多数繁殖している。毘沙門沼周辺のを減少させるのは並大抵のことではない。覚悟を決めて徹底駆除を継続して行うべきであろう。その他探勝路の路傍にあるものは、モニタリングの際に見つければ駆除しており減少傾向にある。

・コカナダモ：柳沼では、今夏は極端な繁殖はなかった。

・コーンフリー：東園地（地点M）のオオアカバナ横で繁茂しており問題だと思われる。

・こうした外来植物に対しては、見つけ次第駆除していきたい。

（3） 希少植物

探勝路周辺の希少植物については、専門家が見ればもっと多様な種があるのかもしれないが、我々は元パークボランティアの平野恭弘氏（故人）から教わった6種について行っている。

・ツバメオモト：所在が探勝路から少し離れているため、ほとんど手つかずに残っている。そのため、年々その数を増やしているように思われる。

・ヒメイチゲ：探勝路の路傍にあるが、姿が小さく我々でも見つけ難い場合がある。これも所在が分かれば盗掘の危険はあるが、今年も可憐な花と実を確認している。

・ヒロハツリバナ：樹木であるため盗掘の危険はなく、今年も開花、結実を確認した。

・トキソウ：モニタリングのタイミングがずれているのか消滅したのか判らないが、今年も確認できなかった。

・オオアカバナ：五色沼東園地のものは、周辺のヨシやコーンフリーに負けているのか、確認し難くなっている。ここのコーンフリーは駆除した方が良いのではないかと思われる。

（4） 安全管理

・路面のぬかるみ：天候や調査時期によって異なる。今年も第3,6回と第7回時に数か所確認したが、これ以外にも路面の柔らかい場所があった。弁天沼の展望デッキの下は、整備された結果良い状態が継続して保たれている。しかし、恒常的に路面がぬかったり柔らかかったりする場所が他にもあり、観光客がこれを避けて通るため道幅が徐々に広がり周辺の植生に負荷をかけている。毘沙門沼西岸の橋上のぬかるみは改善された。

- ・探勝路外への踏み込み跡：何の目的か判らないが、探勝路外へ踏み込んだ跡が数か所見つかっている。昨年同様、柳沼側の探勝路入口標識脇から柳沼畔へ踏み込んだ跡があった。
- ・危険植物：昨年度は観光客からドクウツギについて、危険であるとの指摘をうけ根本からカットされ、今年度は結実が少なかった。今年度秋には幼児にウルシの葉を持たせて写真を撮る両親を見かけた。探勝路中には手が届くところにウルシやツタウルシがある。その危険性についてすべての通行人に周知する事は現段階では不可能である。触れなくても近くを通過するだけでかぶれる方がいるとも聞くので、少なくとも危険な植物だけは手の届く範囲で除去してはどうだろうか。
- ・危険な木道、ベンチ：弁天沼竜沼間の、一昨年修復したベンチの他に2基も傷んできている。この近くの木道、弁天沼展望台下の木道も傷んでいる。るり沼入口の木道の継ぎ目が狭くすれ違いが困難で、団体客を引率する場合など時間がかかる。危険安全を考えるならば各所早期の改善が必要だと思われた。
- ・倒木の処理：第6回のモニタリング時に倒木の処理跡があった。最近の探勝路整備は、素早くしかも的確である。
- ・路面に突き出た岩角：青沼の視点場に下がる歩道とるり沼へ上がる歩道が、岩角がむき出しになっていて足場が悪くなっている。ある程度服装（履物など）がしっかりした人や健常者には問題ないかもしれないが、軽装の観光客には足場の悪さが気になる場所である。また、前述のぬかるみについても同じことが言える。探勝路の出入り口（柳沼、毘沙門沼側ともに）には、その旨表示されているが、あまり真剣に読んでいる観光客を見たことがない。今後より多くの観光客を見込むのであれば、さらに周知の方法を考える必要があると思われる。

(5) その他

- ・支障木の除去：すでに記したように、一昨年11月に支障木の枝打ちや伐採が行われた。おおむね探勝路傍の各沼が見やすくなった。しかし、徐々に葉が茂り、新たな整理が必要になってきている。今後も定期的に、裏磐梯の顔でもある五色沼自然探勝路の点検、整備をしていくことで、安全安心な利活用が期待できるものと思われる。

以上